

UIFA JAPON D'AUJOURD'HUI

今日の話題 各地会員からのメッセージ

■CONTENTS

- TOPICS
- ・第2回UIFA JAPON総会のお知らせ
 - ・(財)東京女性財団より助成金の認可
 - ・新しい会員名簿の作成
- MESSAGE
- 新会員からのメッセージ
 - 各地会員からのメッセージ

■TOPICS

第2回UIFA JAPON総会のお知らせ

開催日 1994年6月11日(土)

場所 池袋芸術劇場5階 13:00(開場)

◇総会 13:30~14:15

◇シンポジウム 14:30~16:00

テーマ;サンフランシスコ・オークランド・パークレイ
～やさしい街の見聞記～

講師;野村みどり 都立医療技術短期大学

川内美彦 地域生活情報センター

小川信子 日本女子大学家政学部住居学科

◇懇談会 16:30~18:00(2Fレストラン)

(財)東京女性財団より助成金の認可

(財)東京女性財団による平成6年度UIFA JAPON事業に
対する助成金を申請し、4月1日付で認可されました。

助成事業名;シンポジウム

「家族とすまいー韓国と日本」

助成金額 ; 1,000,000円

開催予定日;1994年10月22日(土)

今後、細部の検討を精力的に行います。乞うご期待!

新しい会員名簿の作成

顔写真や似顔絵付きの名簿を作成しています。

6月11日の第2回総会の日新しい名簿を皆様にお
渡しするために、まだの方は至急お送りください。

間に合わない場合は旧名簿そのままです顔が見
えない分淋しくなります。

■UIFAへの期待



昨年、建築雑誌で「UIFA JAPON」の存在を知りました。

私は、大学を卒業するとともに日建設
計に入社し、今年で6年目になります。

入社当時、日建設計には驚くほど女性

技術者の数が少なく、身近に女性の先輩の存在はあり
ませんでした。そのような中、特に差別されていると
感じることもなく、ごく自然に過ごすにつれ、自分が
女性技術者になろうとしていることすら忘れかけてい
た時に、「UIFA JAPON」の記事に触れ、今
までの長い間、そして現在も、様々な分野の第一線で
活躍されている女性技術者の先輩方を認識し、「UI
FA JAPON」の活動に興味を持ちました。今後
「UIFA JAPON」の活動に参加し、より豊か
な建築・都市環境の実現を目指していきたいと考えて
います。

東京都 日建設計 中村晃子

■会員となって

私がUIFAのことはじめて耳にした
のは、10年以上前の第6回大会に、同
じ職場だった現小川信子副会長が展示
パネルを携え、パリへお出かけになっ
た時のことと記憶しています。当時の



私は、海外へ出かけることはもちろん、仕事をするこ
ともままならない状態で、とてもうらやましく思った
ものでした。そして今、75番目のUIFA JAPON会員と認
めて頂きました。

環境に携わる女性達が、それぞれのライフヒストリ
ーを大切にし、その上で手を結び、次代を担う子ども
達に自信を持って未来を手渡すことが出来るよう、地
道な活動の場としていければ、と願っています。

しかも、世界中の女性達と学びあいながら。

愛知県 愛知みずほ大学 阿部祥子

■広報日より

働東京女性財団より助成金がありました。

これはUIFA JAPONが目指す国際交流事業が評価され、さらに広く外に向けて飛躍する初舞台となります。

シンポジウム「家族とすまいー韓国と日本」を開催するにあたって、韓国の建築界の現状や女性建築家の動向や建築教育の状況などを把握し、アジアの一員として、また、文化の流れを共有する隣国として、今後の韓国との交流をより深いものにしたいと思います。

韓国の建築関係の学会や組織団体、活躍している建築家などご存じの方は事務局までご一報ください。

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

UIFA JAPON 事務局

〒105 東京都港区芝公園3-1-8

芝公園アネックスビル(株)生活構造研究所内

TEL 03-3459-0221

■社会人になって



長い学生生活に別れを告げて、この春から社会人となりました。そして、この1ヶ月間は、新入職員研修で大阪と東京にいました。

何にしても、事を始める時は大きな不安と期待があると思います。私も入社式までは、かなりナーバスだったと思います。しかし、時間がたつにつれて、不安と期待は様々に変化します。研修中では、不安は段々と小さくなりましたが、期待もそれ以上に小さくなっていきました。その原因は、会社が男女平等な対応をしないことです。基準は男性で、女性はそれに足りないと感じている方が多くて、対応も中途半端で、分かりにくいことが多く、本当にがっかりしました。

これから働いていくうちには、男女差だけでなく、もっと嫌な部分も経験するのかもしれませんが、何とか乗り越えたいし、そういう周りの考えを働きやすい環境の方へ向かわせたい、と思います。そのためには自分に自信をつけなくてはいけないと思います。

話は変わりますが、UIFA JAPONの会員になって1年経ちます。しかし、講演会等が東京なので行くのに億劫になり、出席したことはありません。飛行機で2時間はかからないのですが、気分的・金銭的に楽ではないのです。もっと近くであれば、参加もし易いのですが……。

まだ何も分からない社会人ですが、少しでも前に進んで行きたいです。UIFA JAPONは会社とは違った視点で建築を見ていけるのではないかと考えています。今は「二兎を追う者は二兎を得る」つもりでやっていきたいです。

福岡県 大林組九州支店 久保直子

■「構造や」のつぶやき

学生時代のゼミ選択に始まり、構造事務所への就職、構造事務所の自営と常に同じ分野を歩んで来ました。

当然のことながら周囲の人達には「構造や」が多く、興味を持つ話題が同じ



なら、話し言葉も同じ、考え方も似通っています。これは同じ「構造や」同志ではとても便利ですが、ツーカーの仲間になるのですが、いろいろな分野の人々の集まりでは、自分の考えを相手に伝えるのにも四苦八苦。話すことの難しさを痛切に感じています。

先輩に言われた「こちらの思っていることを意匠やさんに分かってもらうには友達になることだ」という言葉が、今でも鮮明に記憶に残っています。共通の目標に向かって様々な分野の人たちが協力し形づくっていくこと、そのものが設計活動であると考えていた私には、理解しがたいことでした。現実のところ、デザインに少しでも口を挟もうものなら「構造やのくせに」「女のくせに」等等。どんな空間をイメージし、どんな構造形態を求めているのか理解したいとの思いも相手にとっては批判でしかないようです。お互いに遠慮なく批判ができるようになった時にはものづくりの面白さに浸れるのですが。

いろいろな集まりに出かける機会が増え、本音を出さないあるいは本音を出せない集まりがじつにたくさんあることに驚きます。こんな中で、建築という共通の基盤を通してまた女性という共通の視点から自由の話し合い本音を出しあえる集まりが、UIFA JAPONであれば願っています。東京だけでなく身近な場所での集まりがあればより参加しやすいのではないのでしょうか。仕事の不満など単なる井戸端会議にしかないとしても少し分野の違う話面白いと思います。

神戸市 巴建築設計事務所 武野朋子